

凡事徹底(縁)

八代第一中学校

生徒指導通心

第13号 2023. 7. 7 (金)

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践 綱領：至誠貫徹・真理探究・耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦 一中プライド～

命を守る行動を～「1:29:300の法則」＝自分の行動を、ハインリッヒの法則に当てはめて振り返ってみよう～

7月5日(水)、安全委員会より、自他の命を守る取組として、「交通安全教室」が行われました。私の方でも、これまで、「マナー＝周囲に対する気遣いの心」と「ルール＝ヘルメットのあごひも・一旦停止等」、「危険予測をする力＝(～かもしれない)」について話してきました。危険予測力を高めるためには、廊下を走らない(走るとどんな危険が考えられるのか?)、教室から絶対に廊下に飛び出さない(飛び出すとどんな危険が考えられるのか?)、ガラス近くで暴れない(どんな危険が考えられるのか?)等、普段の生活場面の中でも危険を予測し行動できる力を身につけておかねばなりません。この力が実生活の中で役に立ってきます。

1つの事故や事件が起きる背景には、「やめておけばよかった」という赤信号が29個「注意すればよかった」という黄信号が300個あるという「ハインリッヒの法則」があります。米国の保険会社に勤務していたハインリッヒ氏は、重傷以上の事故が1件起きる背景には、軽傷になる事故が29件起きており、あやうく事故になるような「ヒヤリ」、「ハッ」とするような出来事が300件あるという「1:29:300の法則」を発見しました。「危険」なことだと分かっているにもかかわらず止められない。「あぶない」とドキッとした時には注意するけど忘れてしまう。あの時こうしておけばこんな事件にはならなかったのにと悲惨なニュースの度に考えさせられます。かけがえのない大切な命です。被害者にも加害者にもなってはいけません。みなさんは中学生です。状況に応じて適切な判断をし、行動できる人になれる(なるべき)年齢です。「ハインリッヒの法則」を、自らの様々な生活場面において、自己を振り返るヒントにしてみてください。

「夢実現・自己実現」コーナー ～「感謝こそ人生を潤す花だと思うのです」～

イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんの言葉には、たくさん学ぶことがあります。今日は、その一つを紹介します。

豊かな現代社会においては、「下座行(げざぎょう)」と呼ぶに値する行為が少なくなってきました。「下座行」とは、自分の身を低くして手足を動かし働くことです。しかも、人様のためになる行為を黙々と実践することです。周りの人を「笑顔」にしていける行為こそが自分の人生をよくし、世の中をよくすることに通じます。「幸せ」になるための基本として、私は、できるだけ自分の時間と身体を誰かのために使うように努めています。まだまだ十分な行動ができているとは思いませんが、私が実践している代表的な一例は、「凡事徹底」等の通信を書くことと、学校の「整理整頓」をすることです。私にとって「手紙」や「凡事徹底」等の文字は、読んでいただく相手(みなさん)のことを思わなければ書くことができません。地域の掃除や放課後の環境整備も、翌朝再会するみなさんの気持ちの良い「笑顔」を思い浮かべながら行っていることには変わりありません。相手のためだけに自分の時間を使うと、心の中に何気ない日常への「感謝の気持ち」と「心を満たされる幸せな気持ち」が膨らんでいきます。常日頃から心の中に余裕をもっていたいものです。一中生のみなさんは、いかがでしょうか。